

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：合渡保育園	種別：保育園		
代表者氏名：桂 華 信 英	定員（利用人数）： 1 5 7 名		
所在地：岐阜市寺田3丁目17			
TEL：058-251-5301	ホームページ： http://www.katsurafukushi.jp/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 令和5年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 桂福社会			
職員数	常勤職員： 1 2 名	非常勤職員 1 0 名	
専門職員	（専門職の名称）	名	
	保育士	9 名	保育士 1 0 名
	看護師	1 名	
	栄養士	2 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）	
	6 保育室	調理室 調乳室 トイレ シャワー	

③理念・基本方針（※転載）

理 念

- ・常に子ども達にとってのよりよい環境づくりをめざし、子ども達一人ひとりの大切な命を守ります。
- ・養護と教育の一体となった保育を進め、豊かな人間性を持った子どもを育成します。

基本方針

- ★すべての人に「ていねいに」「やさしく」「大切に」接します。
- ★「あなたに会えてうれしい」という気持ちで、無条件に子ども達を受け入れます。
- ★相手の心の痛みを自分のものとして受け止め、互いに尊重する心を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

<子どもたちが活動しやすいよう環境が整備されている。>

保育室の南側に広いウッドデッキを設置し、ゆったりと安全に遊べる場となっている。

未満児クラスからはすぐにデッキに出られるようになっている。デッキ内は埋め込み式のプールがあり、夏にはプールとして利用している。また2階ホールは広く、一段高い舞台もあり、ゆったりと自由に活動できる環境である。園庭から室内に入出りできるトイレが設置されている。保育室には、保育士の手作りのままごとの道具や子どもたちが遊びを発展して行ける遊具が多く揃っている。

<園での生活を楽しくさせる工夫がされている。>

トイレの扉の楽しい絵柄、玄関の見やすい場所に大きな水槽を置き、熱帯魚を飼育し、子どもたちの目を楽しませている。基本的な生活習慣は子どもたちの自主性を大切にし、イメージキャラクター（歩クンジャー、止マルジャー、水トメルンジャー、片づけるんジャー、スリッパそろえるんジャー等）7レンジャーで楽しみながら身につけてもらっている。

<健康管理が十分行き届いている。>

常勤看護師2名による日常的な健康管理が行き届いている。
新型コロナウイルス感染対策にもしっかりと対応している。

<地域の子育て支援に保育所機能を還元させている。>

地域の保護者の子育て支援のため、公民館での「子育てサロン」での出前保育や園庭開放、子育て相談、絵本の貸し出しを行なっている。（コロナウイルス拡大防止のため中止中）また赤ちゃんステーションとしておむつ換え、授乳等の場所として開放している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7年 8月 12日（契約日） ～ 令和 8年 3月 31日（評価結果日）
受審回数(前回の受審時期)	初 回（令和 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<職員の力を引き出し、チームで支え合う園運営>

園長は、豊富な経験を活かし、常に「子どもにとってより良い環境とは何か」を軸に園運営を進めている。特に、職員同士が気軽に相談し合い、互いに協力しながら動ける体制づくりに力を注いでおり、日々のコミュニケーションが自然と深まるような職場の雰囲気や育まれている。問題が生じた際には、園長・副園長・チーフがすぐに昼礼で状況を整理し、各クラスへ迅速に共有することで、課題を先送りにせず園全体で解決に向かう姿勢が根づいている。さらに、職員が業務を抱え込みすぎているか、悩みを一人で抱えていないかにも丁寧に目を配り、互いに支え合える働きやすい環境づくりを大切にしている。

<保護者との信頼を育む丁寧な関わり>

保育者一人ひとりが日々の関わりの中で丁寧に保護者へ寄り添っており、その積み重ねが良好な信頼関係の構築につながっている。公立園から民間への移管 3 年目という若い園でありながら、園舎建て替えという大きな変化の時期にも保護者との丁寧なコミュニケーションを大切にし、安心して子どもを預けられる場としての信頼を着実に築いてきた。保護者の思いや不安にしっかりと耳を傾けながら、園の方針や取り組みをわかりやすく伝える姿勢が根づいており、園と家庭が自然に協力し合える関係が育まれている。

<自然と生き物に囲まれ、豊かな心を育む環境づくり>

園は岐阜市郊外の静かな住宅地に位置し、四季の移ろいを感じられる豊かな自然に囲まれている。隣には小学校もあり、子どもたちが地域の環境に親しみながら育つことのできる恵まれた立地である。現在は園舎建て替え中で一部の活動に制限があるものの、これまで植物の栽培や生き物の飼育を通じて、食や生命の大切さに自然と触れられる環境が丁寧に整えられてきた。室内に設置された大きな水槽では熱帯魚がゆったりと泳ぎ、子どもたちの心を穏やかに和ませる存在となっている。自然や生き物と日常的に関わることができる工夫が随所に見られ、子どもたちの豊かな興味や優しい気持ちを育む環境づくりが着実に進められている。

<一人ひとりを大切にする姿勢が息づく園づくり>

子どもを温かく迎え、丁寧に関わるといった姿勢が職員一人ひとりの保育の姿に自然と表れており、印象的であった。子どもだけでなく、保護者や職員同士に対しても「かけがえのない存在として尊重する」という思いが共有されており、互いを大切にしようという温かな雰囲気は園全体に広がっている。相手の気持ちに寄り添いながら関わる保育者の姿は、園の基本方針が日々の実践にしっかりと根づいている証であり、深い信頼感と温かな環境づくりへとつながっている。

◇改善を求められる点

<マニュアルの活用促進と情報共有の仕組みづくり>

マニュアルや手順書、フローチャートなどは紙媒体と電子データの両方で整備され、誰でも閲覧できる環境が整っている。一方で、内容によっては担当者のみが把握しているものもあり、職員全体への浸透という点では課題が残っている。園では職員一人ひとりが「より良くしたい」という前向きな意欲を持ち、日々の保育実践に臨んでいる。法人が作成したマニュアルを現場で活用しやすい形に見直し、保存・管理・周知の方法を整えると同時に、全職員が同じ情報を共有し、保育の質を安定的に向上させていくことに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、保育のあり方や園の運営全般について見直すよい機会となりました。評価では、良い点や改善すべき点などにつきましてご指摘をいただきました。今後、改善すべき点の改善に取り組むとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努め、保育実践力の向上に努めていきたいと考えています。また、公立園から民間へ

の移管 3 年目であり、地域に開かれた園として、多様化する地域の子育て支援ニーズに対応した支援の提供に取り組んでいきます。

⑧ 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。